シンポジウム

関西国際空港を活用した観光戦略について

～インバウンド観光客の動向、泉州地域の事例をふまえて～

日時：平成28年２月５日　午後２時
場所：関西空港会議場「白鳥の間」
（ホテル日航関西空港内）
共催：公益財団法人　堺都市政策研究所
一般財団法人　関西空港調査会

開催趣旨

関西国際空港における外国人旅客数は、円安の進行やLCC（ローコストキャリア（Low Cost Carrier）航空会社）の充実を背景に、1994年の開港以来最多を更新しており、これら訪日外国人旅行客（インバウンド）が生み出す関西への経済効果は、非常に大きなものとなってきています。

一方、関西国際空港が泉州地域にありながら、外国人旅行客の多くは大阪市内などに流れているといわれており、その恩恵を享受できていないという実感もあります。

堺都市政策研究所では、これらのことから、平成27年度の調査研究において、泉州地域９市４町で構成する泉州地域政策課題研究会との共同研究として、泉州地域におけるインバウンドの実態調査を実施するとともに、関西国際空港を利用したインバウンドが関西・大阪にもたらした経済波及効果の推計にも着手しています。

関西空港調査会では、「関西国際空港を活用した関西の活性化・国際化」に多方面から調査・研究に取り組んでおります。

本シンポジウムでは、これらの活動成果をベースに、「関西における関空の果たすべき役割」「泉州地域の中の関空」という視点から、関西国際空港を中心とした関西圏や泉州地域におけるインバウンドの観光戦略などについて、参加された皆様とともに考えていきます。

基調講演

みやもと　かつひろ
宮本 勝浩（公益財団法人堺都市政策研究所 理事長、関西大学名誉教授、大阪府立大学名誉教授）

1945年和歌山県生まれ。
1970年大阪大学大学院経済学研究科修士課程修了。
大阪府立大学経済学部長、同大学副学長を経て、2006年関西大学大学院会計研究科教授。
現在関西大学名誉教授、大阪府立大学名誉教授。
この間、アメリカハーバード大学、インデアナ大学客員研究員、ロシア極東国立商科大学、南京理工大学客員教授、上海同済大学顧問教授。専門分野は、理論経済学、国際経済学、関西経済論、スポーツ経済論。
公職として、元財務省財政制度等審議会委員、元総務省情報通信行政・郵政行政審議会委員、大阪広域水道企業団経営・事業等評価委員会委員ほか。
主な著書は「移行経済の理論」（中央経済社）、「現代経済分析のフロンティア」（中央経済社）共著、「大阪経済学」（経営書院）共著、「『経済効果』ってなんだろう?」（中央経済社）ほか多数。阪神優勝、シャープ堺工場誘致、たま駅長、石川遼選手、大阪マラソン、大阪桐蔭高校藤浪投手、金本阪神監督、ネコノミクスなどの経済波及効果について発表を行っている。

パネルディスカッション

＊パネリスト

いしかわ　こうじ
石川 浩司 氏（新関西国際空港株式会社 執行役員 コーポレートコミュニケーション部長）

1960年生まれ。
1990年関西国際空港株式会社入社。
2003年社団法人関西経済連合会へ出向し、関西国際観光推進センターにて観光プロモーションに従事する。
2005年関西国際空港株式会社　経営戦略室調査役、2010年調達部担当部長、2011年経営戦略室担当部長。
2012年、新関西国際空港株式会社となってからは経営企画部担当部長、関西国際空港が大阪国際空港と統合後は、地域振興、ブランディングやCS向上を担当するコーポレートコミュニケーション部長。
2015年に同社執行役員に就任。2008年には「大韓民国慶尚北道海外観光広報諮問委員」任命を受けるなどのほか観光推進団体での活動も行っている。

さかた　しげる
阪田 茂 氏（南海電気鉄道株式会社 取締役 鉄道営業本部副本部長、営業推進室長）

1959年京都府生まれ。
大阪市立大学商学部卒業後、1982年南海電気鉄道株式会社入社。
鉄道事業本部運輸部に配属後、南海本線運転士と助役を経験し、本社部門では輸送計画業務、ITを活用した列車運行計画業務に従事。空港連絡輸送の基本計画策定を担当する。
これまでに人事部、みさき公園、総務部、鉄道統括部、監査役室などの部署を経験。2011年執行役員、2013年取締役。経営政策室長、総務室長を経て、現在は鉄道営業本部副本部長、営業推進室長として鉄道輸送を始めグループ全体のインバウンド戦略など関空関連全般を担当している。

はざま　えみこ
狭間 惠三子 氏（堺市副市長）

堺市出身。
1982年立命館大学文学部卒業。同年サントリー株式会社入社。
人事部、広報部、サントリー不易流行研究所課長（後に次世代研究所に名称変更）、財団法人大阪観光コンベンション協会部長等を経て、2012年4月より現職。
不易流行研究所（次世代研究所）在籍中は、都市の楽しみやまちづくり、現代人のライフスタイル、次世代をとりまく社会環境等に関する調査、研究に携わる。
この間、大阪市立大学大学院博士課程修了。
大阪商業大学非常勤講師、京都嵯峨芸術大学大学院非常勤講師等を務め、文化政策学、地域活性化論等を担当。
主な著書に、『変わる盛り場―「私」がつくり遊ぶ街』（共著、学芸出版社）、『時代の気分 世代の気分―私がえりの時代に』（共著、NHK出版）、『あなたの知らない妻がいる』（講談社）等がある。

＊コーディネーター
宮本　勝浩

基調講演

「関西・泉州地域におけるインバウンドの現状と展望 ～実態調査・経済波及効果の推計から～」

宮本　勝浩
（公益財団法人堺都市政策研究所 理事長、関西大学名誉教授、大阪府立大学名誉教授）

皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、多数のご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

本日は、堺都市政策研究所が平成27年度に実施しました調査研究結果をもとに講演を進めたいと思います。第１章は訪日外国人の動向等実態調査、第２章では関西における訪日外国人の経済波及効果についてお話させていただきます。

訪日外国人の実態調査について

まず、この実態調査は平成27年12月14日、15日に関西国際空港（以下、「関西空港」）とりんくうプレミアム・アウトレットで行いました。サンプル数は合計365件と若干少ないですが、結果報告をさせていただきます。

■どこから来られたか

この期間では香港（20.5%）が一番多く、次いで台湾（19.5%）、中国と韓国（18.6%）であった。

■年齢

意外にも若い方が非常に多く、20歳代（33.7%）、次いで30歳代（30.1%）、40歳代（18.6%）であった。以前はどちらかというと欧米系、そして年配の方が多かった。

■来日回数

１位 初めて（32.1%）と２位 ２回目（21.1%）を合わせると50%を超える割合であった。また、10回以上の来日が12.1%もあった。

■旅行の主な目的

ショッピングが一番多いかと考えていたが、実は観光地めぐり（73.2%）が圧倒的に多かった。ショッピングは、２番目ではあるが12.9%であった。

■関西の魅力（複数回答）

一番多い回答が、日本の食・お酒（57.5%）であった。次いでショッピング（56.4%）、自然・景勝地観光（47.7%）であった。

■「泉州」の認知度

残念ながら「知らない」が85.2%であった。

■「泉州」での宿泊

10.1%の方が宿泊している。昔は、海外から来られた方は関西空港に着いてすぐ大阪や京都に行き、泉州には全くストップしないと言われていました。しかし、最近は少しずつではあるが宿泊者数が増え、泉州の認知度は高まりつつあると考えられるが、まだまだ充分ではないといえる。

経済波及効果について

続きまして、第２章に入らせていただきます。

これまで、関西地域における訪日外国人の消費による経済波及効果を分析した報告書は、いくつかあるのですが、分析のほとんどは関西空港を利用していない人も全て含めたものでした。

私たちは今回、関西のゲートウェイである関西空港を利用いただいている方たちの分析をいたしましたので報告させていただきます。

※報告の中では、関西だけでなく「近畿地域」という言葉も使っており、これは経済効果の分析をする際に利用する「近畿地域産業連関表（近畿経済産業局）」に含まれる、２府５県（大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・滋賀県・和歌山県及び福井県）の近畿地域を指しています。

■2015年に関西空港を利用した訪日外国人数

合計5,685,875人であり、その中でも中国（1,690,504人）から来た人が一番多かった。

■訪日外国人の旅行消費単価 ～近畿地域～

想像していたとおり中国（318,648円／人）から来た人が一番多く使っており、次いで韓国（254,768円／人）、台湾（239,102円／人）の順であった。

■関西空港を利用した訪日外国人の大阪府への経済波及効果

大阪府で計算すると4,308億円もの経済波及効果を訪日外国人がもたらしている。（資料１）

国籍・地域	経済波及効果（億円）	割合（*）
中国	1,601.43	37%
韓国	803.82	19%
台湾	799.52	19%
その他の国・地域	1,103.69	26%
合計	4,308.46	100%

＊割合欄は、整数表記により小数点以下を四捨五入しているため、合計は100%になりません。

資料１：関西空港を利用した訪日外国人の大阪府への経済波及効果

■関西空港を利用した訪日外国人の近畿地域への経済波及効果

近畿地域で計算すると6,312億円の経済波及効果を訪日外国人がもたらしている。（資料２）

国籍・地域	経済波及効果（億円）	割合（*）
中国	2,364.52	37%
韓国	1,178.27	19%
台湾	1,166.34	18%
その他の国・地域	1,603.02	25%
合計	6,312.15	100%

＊割合欄は、整数表記により小数点以下を四捨五入しているため、合計は100%になりません。

資料２：関西空港を利用した訪日外国人の近畿地域への経済波及効果

以上のことから、訪日外国人は非常に大きな経済波及効果をこの関西に与え、つまり関西空港が関西経済に貢献しているということがおわかりいただけたと思います。

最後に

この地元泉州に、もっと訪れていただき、良いところを知って、泊まっていただくということが必要ではないかと思います。

泉州地域をよく知っていただくために、まず私が考えておりますのは、大阪府をはじめ、堺市、羽曳野市、藤井寺市が頑張っておられる百舌鳥・古市古墳群、これを世界文化遺産に登録するということです。登録されますと、必ず外国人の観光客が泊まってくれます。これは非常に大きなインパクトになります。

私も依頼があって、世界遺産に登録した場合の日本のいろんな名所や遺跡の経済波及効果の計算をいたしましたが、世界遺産に登録された途端、爆発的に訪問客が増えます。これは日本人もそうですし、外国人も増えます。

ですから、百舌鳥・古市古墳群を是非、世界遺産に登録していただきたい。これは堺市だけではなく、大阪府にとって初めての世界遺産登録となり、泉州地域にとっても、非常に大きなプラスになるわけです。

さらに私は、外国の人に喜んでもらうために、皆さんもよくご存じの岸和田のだんじり祭をもっとアピールしてもいいのではないかと思います。

例えば岸和田、貝塚、泉佐野、堺、みんなそれぞれに素晴らしいだんじりを持っていて「まつり」をしています。これを９月の間にほとんど日を置かず、今日は岸和田、次の日は堺、さらに泉佐野、貝塚という形でコンパクトにまとめて、この期間は大阪・泉州に来たら必ずだんじり祭を見れるという連携が大切ではないかと思います。

東北の「ねぶた祭」や「竿燈（かんとう）まつり」、「七夕まつり」は、実は開催時期がバラバラだったんですけれども、ある時に１週間にまとめたんです。それで東北に、もの凄い数の観光客が来るようになりました。１ヶ所だけではなく青森に行って、秋田に行って、次に仙台に行く。いろんな形でどんどん観光客が流れていく仕組みをつくったわけです。

先程も申しましたとおり、泉州には「だんじり」という非常に素晴らしい文化遺産がありますので、これをうまく使うことも大切ではないかなと思っております。

今、関西地域は追い風が吹いていると考えております。ですからこの追い風を利用して、訪日外国人に心のこもったおもてなしをして、関西ファン・泉州ファンになっていただいて、リピーターを増やしていくということも大切です。

この6,312億円という数字が、どれだけの経済波及効果かと言いますと、阪神タイガースが10年間連続で優勝した時よりも大きいんですよ。それを１年間で関西空港は稼いでいるわけです。これを我々は、もっともっと広げ、大きくしていくことが大切ではないかと思います。

以上で、私の話を終わらせていただきます。どうもご清聴、ありがとうございました。

パネルディスカッション

「関西国際空港を活用した観光戦略について
～インバウンド観光客の動向、泉州地域の事例をふまえて～」

関西国際空港におけるインバウンドの伸び

■宮本

それでは、パネルディスカッションを始めたいと思います。

関西国際空港（以下、「関西空港」）における外国人の旅客数ですが、円安、それからLCCの就航などを背景にどんどん増えてきております。そして、先程の講演で私が申し上げましたように、関西への経済波及効果が非常に大きくなってきております。

ところが、その関西空港の地元でありながら、泉州地域はまだまだ訪日外国人に知られていないし、その恩恵も少ないのではないかということがございます。

そこで今日は、この関西空港を中心とした、関西や泉州地域におけるインバウンドの観光戦略について、パネリストの方々からご意見をいただきたいと思っております。

皆様ご承知のとおり、LCCの就航などによって外国人旅行客数が開港以来最多ということですが、このインバウンドの施策について関西空港はどのような取り組みをされてきて、そしてどのような成果があったかについて、まず最初に新関西国際空港の石川さんからお話をいただきたいと思います。

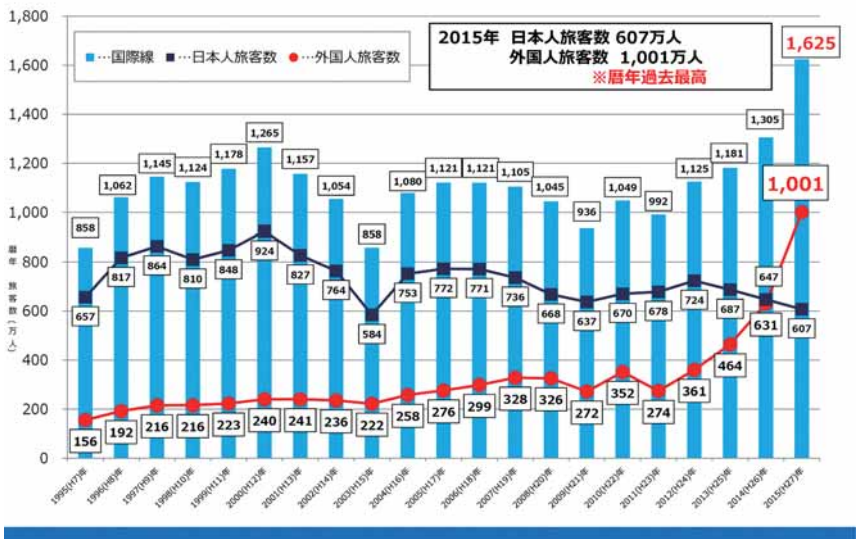
■石川

新関西国際空港の石川でございます。よろしくお願いいたします。

こちら（資料１）は、関西空港における国際線の旅客数です。青い棒グラフは日本人と外国人をあわせた数字でございまして、赤い折れ線グラフが外国人の旅客数、青い折れ線グラフが、日本人の旅客数です。

開港以来21年間の数字でございまして、外国人旅客数は2015年に向かってここ数年、一気に数が増えており、昨年にはついに1,000万人を超えましたが、この数は旅客数ですので、飛行機に乗った人、降りた人の合計の数でございます。

では、日本の空港の中ではどうなのかというのが次のグラフ（資料２）です。



資料１：国際線日本人・外国人旅客数の推移

左側にある折れ線グラフの赤い線が大きく動いていますが、これは関西空港の対前年比の伸び数でございまして、昨年の春先から夏にかけて対前年比で170％ぐらいの数字で大きく伸ばしております。秋になりますと150％台に落ち着いてきておりますが、そういう具合に大きく伸びました。

一方、関西空港を除く空港の伸び率が下の折れ線グラフです。だいたい130％ぐらいで推移していて、日本全体でインバウンドが大きく伸びているのですが、特に関西空港が大きく伸びていることがおわかりいただけると思います。

その結果として右側の円グラフに、「711万人」と書いてあるのが、日本のインバウンドにおける関西空港のシェアです。26％ですから、日本に来ていただく外国人の４人に１人以上は関西空港をご利用いただいている状況になっております。また、円グラフの緑色は成田、紫色は羽田、黄色は中部です。

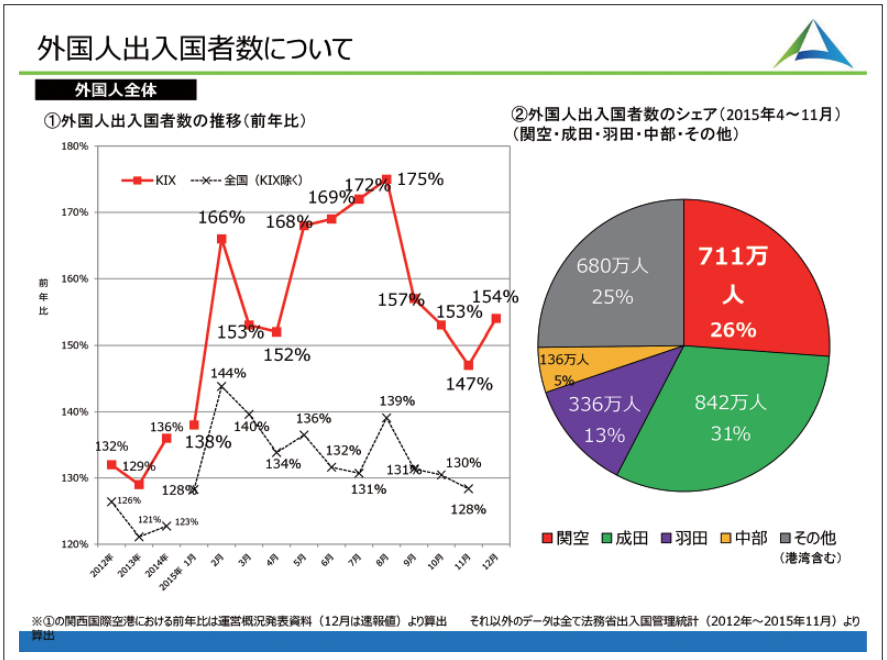
この伸びをどういう国々の方が支えているのかというと主要の４つの国・地域で中国、香港、台湾、韓国がメインのマーケットになっています。関西空港で一番多いのは、おおむね中国、韓国で、次に台湾というのが最近の傾向ではないかと思います。

この４つの国・地域は、すでに日本の空港・港の中でトップシェアになっています。成田でもなく、羽田でもなく、福岡でもなく、関西空港が１番ということです。

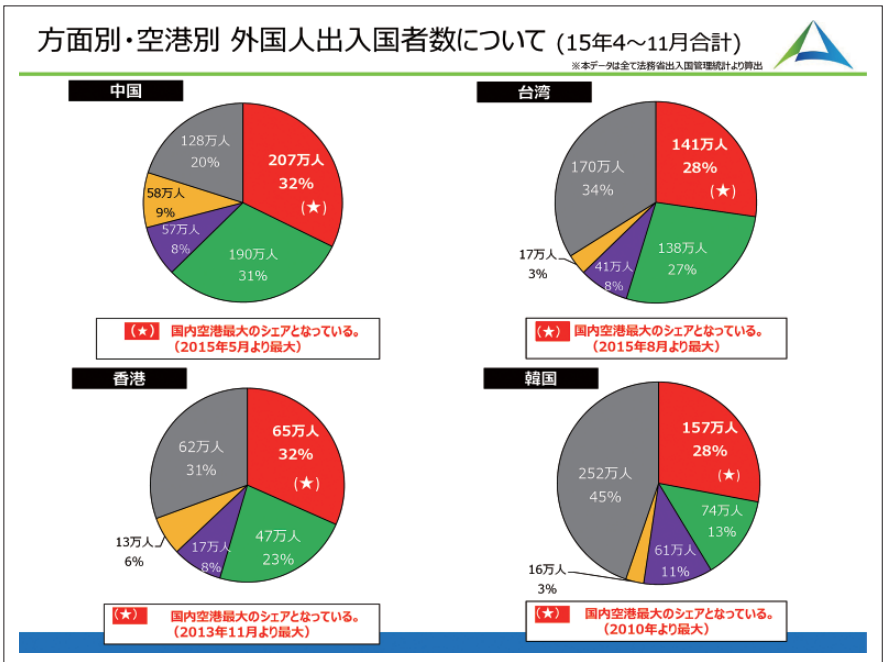
ちなみにこの４つの国・地域別と空港別でみた外国人出入国者数（資料３）における関西空港の割合は、中国32％（207万人）、香港32％（65万人）、台湾28％（141万人）、韓国28％（157万人）と、国内空港でいずれも１番でございます。

この４つの国・地域が関西空港の中のどれくらいのマーケットなのか、どれくらいのシェアなのかといいますと、直近に発表された昨年11月のデータでは、この４つの国・地域で78％を占めています。ですから、関西空港で増えている外国人のお客様の内訳としては、この４つの国・地域が８割を占めているのが現状でございます。

これだけ急にお客様が増えて



資料２：外国人出入国者数について



資料３：方面別・空港別 外国人出入国者数について
（15年４月～11月合計）

まいりましたので、いろんなところで課題が浮かび上がりました。

まず、最初に大きく問題になりましたのが、入国審査場が大混雑しているということ。これは国の管轄ですから国でいろいろ手を打っていただきまして一定の効果が出ております。また、平成28年度の予算でも増員やゲートの増設などの計画が進んでおります。

そして、急にお客様が増えていく中で、LCCが増えていったわけですが、深夜・早朝の便も多くあります。結果としてロビーにたくさんの方がお泊まりになるということが発生しており、毎日300～400人が空港ロビーでお過ごしになっております。その対応として、建物の一角に椅子を並べただけですが、簡易の休憩スペースを作り、シャワールームも作って対応をしております。

さらに、国際線には保安検査、出国審査がありますが、これらも非常に混みあっておりまして、今日現在も混んでいるわけです。そこでブースの増設、またそのあたりをコントロールするようなスタッフも多く配置して対応に努めているところです。

また、報道でもありましたけれども、空港内のゴミ箱からたくさんのゴミが溢れるという事態が昨年の夏ぐらいにかなり頻発しまして、清掃の強化や警備の強化、あるいはトイレの使い方のシールを貼るなどしながら、空港の美化、あるいは混雑の緩和、あるいはお客様の満足度の向上をやってきたというところでございます。

簡単ではございますが、現状を報告させていただきました。

■宮本

どうもありがとうございました。関西空港を利用する訪日外国人が急増してきているので、それにあわせていろんな対応を考えて実施しているというお話をしていただきました。

それでは次に、南海電気鉄道（以下、「南海電鉄」の阪田さんにお話を伺います。

南海電鉄は難波駅から泉州地域を通りまして、関西空港、それから岬町、和歌山に線をつないでおりまして、インバウンドの観光で人気があります高野山にも非常にたくさんの観光客を運んでおられます。

つまり、泉州地域には非常に馴染みのある電車で私たちもよく利用しているわけですけれども、関西空港におけるインバウンドの増加を受けた反響、またその対応についてお話をしていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

南海電鉄への反響とその対応

■阪田

平素は当社グループの事業運営に対し、多大なるご支援とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

こちら（資料４）に当社沿線を簡単に示しております。まず鉄道事業でございますが、ご承知の通り南海本線と南海高野線、この２つを幹線としております。平成６年から空港線ができ、一昨年からは南海グループに泉北高速鉄道線が加わり、現在は年間で約２億5,000万人のお客様をお運びしております。

当社は明治18年に創業し、昨年創業130周年の日本で一番古い私鉄ですが、空港線は21年目を迎えております。

先程来の説明で、関西空港ではここ４年間で急激にお客様が増えたということでしたが、鉄道輸送につきましてもこの４年間で約1.6倍になっております。これは全体の数字でございまして、定期券を除いたお客様につきましては、４年間でほぼ２倍になっております。

当社は、平成26年10月にダイヤ改正をさせていただきました。単に列車本数を増やしただけでなく、接続の方法、あるいはダイヤパターンを変えまして、関西空港をご利用される方にとって便利なダイヤに変更いたしました。

また、JR西日本さんと当社はライバル関係にありますが、だいたい目的地によって棲み分けができております。ただ、JR西日本さんは

資料４：南海電鉄の紹介　～沿線～

広域ネットワークですので、当社は関西のほかの私鉄、あるいは大阪市営地下鉄と共同で格安なチケットを作っております。海外向けの商品につきましては、直接海外に行き、エージェントへプロモーション活動を展開しております。さらに、飛行機の機内でも当社の切符を売っていただくということを、ピーチアビエーションさんから始めております。関東の空港、羽田と関西空港、あるいは成田と関西空港、これを結ぶために東京の私鉄と連携したチケットも作っております。

これ以外にもウェブを使って、直接海外の方が当社の切符を買える形にもしておりまして、JR 西日本さんと競い合うためにこういったプロモーション活動や販売チャンネルの開発が我々の一番の課題となっております。

次に、バス事業でございます。関西空港は24時間対応ですが、鉄道は完全な24時間対応にはできません。その部分を補完するのがリムジンバスで、これはグループ会社の関西空港交通が担当しております。とくに早朝・深夜につきましては、梅田あるいは京都方面のお客様がたくさんいらっしゃいますので柔軟に対応しております。このほか、ターミナル間、あるいはターミナルと飛行機を結ぶシャトルバスにつきましては、グループ会社の南海バスが担当しております。

ホテル事業は、難波周辺と南紀に展開しており、最近の傾向では難波の宿泊客のうち約85％が海外のお客様となっております。

流通事業は、難波に「なんばシティ」と「なんばパークス」がございます。免税カウンターを整備しており、年々この利用率は高まっております。それ以外にもハラル[1]対応ということで祈祷室を設けたり、ハラル認証のとれる食事を提供しております。

旅行事業としましては、やはり難波および大阪の情報をきちんと情報発信していきたいということで、難波でインフォメーションセンターを運営しております。そして大阪には夜に楽しむところが少ないということで、住之江競艇のナイトレースを観ていただくといったツアーもございます。

次に、関西空港へのアクセス交通の推移（資料５）でございますが、鉄道も急激に増えております。

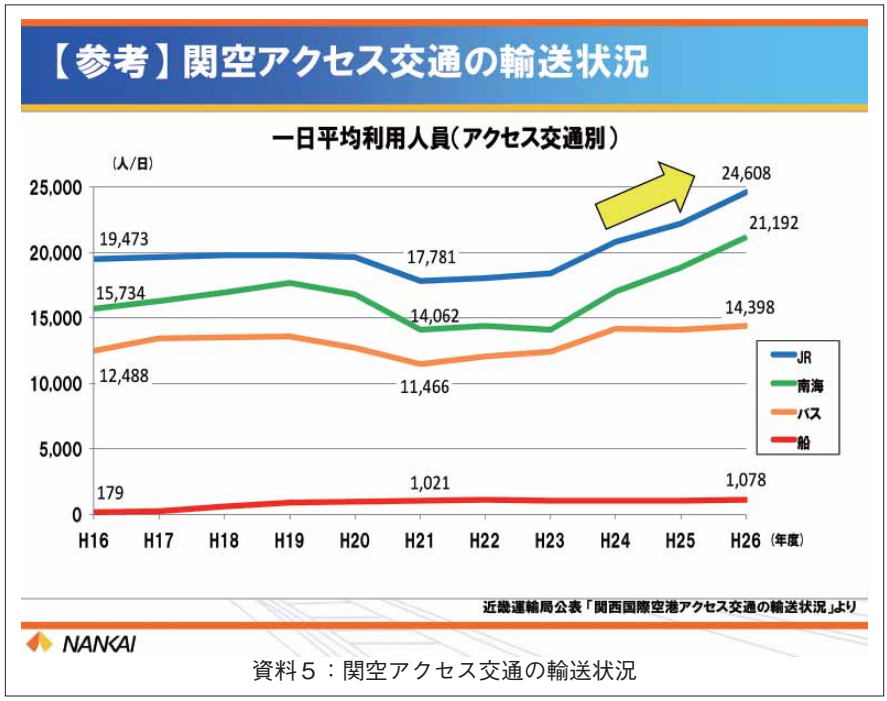
輸送力につきましては、関西空港のピークの時間帯と当社の通勤ラッシュの時間帯がずれておりますので問題ないのですが、一番困っていることは案内をどうするかという問題です。当社は関西空港の開港前から駅員に英会話の研修をしていたのですが、英語が通じないお客様が増えております。このための対策として、Free Wi-Fi（資料６）をご利用いただける環境を、駅あるいは車内に順次整備しております。新しく導入する車両につきましては、車内放送の自動化、さらに案内表示の４ヶ国語対応を考えております。

そしてパンフレットについては、各社バラバラに作ると分かりにくいので、関西のほかの私鉄と連携して、できるだけ共通化した４ヶ国語対応のものを作っております。

1　「ハラル」
　イスラム法において合法なもののこと

最後に、(映画)スターウォーズと提携した「黒いラピート」を走らせております。この情報も海外発信しておりまして、海外から来たお客様がこの黒いラピートに乗って、携帯電話で写真を撮って、それをすぐSNSで情報発信していただいております。

現在困っておりますのは、やはり大きな手荷物を持って乗車される方が多いので、これからの車両には手荷物を置くスペースを広くとった車両の導入を考えております。そして、マナーの問題ですが、関西の方もマナーは決して良くないですけれども（笑）、外国の方にも日本のマナーを守っていただけるようにさまざまな取り組みをしているところでございます。



資料５：関空アクセス交通の輸送状況

資料６：鉄道部門の受入基盤の整備

■宮本

どうもありがとうございました。訪日外国人の急増にあわせて、南海グループさんはソフト面でもハード面でもいろいろ工夫をして、できるだけたくさんの外国人の人々に、気持ちよく関西のあちこちに足を運んでいただこうという取り組みをされているとよく分かりました。

続きまして、堺市の狭間副市長にお伺いします。

堺市役所のある堺東駅周辺でも、外国人観光客が買い物をしている姿をよく見かけます。

堺市のインバウンド誘致の取り組み、それからこの地元泉州の９市４町（堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町）で構成される泉州観光プロモーション推進協議会の活動につきましてお話をしていただきたいと思います。

堺市の魅力発信

■狭間

堺市は、やはり歴史、文化が大きな魅力です。そして、脈々と続くものづくりの伝統、匠の技、こういったものを堺市の持っている貴重な地域資源としてアピールしていこうと取り組んでいるところです。

宮本先生からは、堺市内でも外国人の姿を見るようになったと言っていただきました。もちろん大阪市中心部と比べるとまだまだですけれども、例えば堺ホテル協会に加盟しているホテルに宿泊された外国人の宿泊者数の伸び率をみますと、平成24～25年で1.5倍、25～26年で約３倍と著しく増えている状況です。

今日は２つだけ、主だった取り組みをご紹介いたします。（資料７）

ひとつは、平成27年３月20日にオープンしました「さかい利晶の杜（りしょうのもり）」（以下、「利晶の杜」）です。

堺が育んだ二人の偉人、侘茶を大成した茶聖・千利休と、日本近代文学を切り拓いた歌人・与謝野晶子の生涯や人物像などを通じて、堺の歴史・文化の魅力を発信する文化観光施設です。合わせて、観光資源のネットワーク形成を図り、市内の観光周遊へ誘導する役割も果たしています。

この愛称は公募でつけていただいたもので、千利休の「利」、与謝野晶子の「晶」で「利晶」です。この場所は利休の屋敷跡の横であり、晶子の生家跡の近くでもあります。

表千家・裏千家・武者小路千家の方々のお点前（てまえ）により椅子席でお抹茶とお菓子を味わっていただく立礼呈茶や、茶道三千家の指導のもとお客様自身がお茶を点てる茶室お点前体験などを楽しんでいただけます。

このようにいつでも本格的な茶の湯を体験できる場は京都でも無いと言われます。最近は海外のお客様も非常に増えております。

昨年３月20日にオープンした際、年間集客目標を20万人と設定しましたが、「そんなに人が来るの？」と心配されました。しかし、今年の１月４日で来館者が40万人を突破しまして、うれしい悲鳴といったところです。

次に、仁徳天皇陵古墳を中心とした百舌鳥古墳群です。古市古墳群と合わせて、ユネスコ世界文化遺産に登録しようと活動を進めております。目標は今年国内で推薦をいただいて、２年後の平成30年に世界文化遺産に登録されることです。登録されますと国内外問わず、多くの方が堺にお越しくださるだろうと思います。それに向けて周辺の整備やアクセス対策に取り組んでいます。例えば「利晶の杜」と古墳群をどう周っていただくかといった動き方も含めて、受け入れ整備を考えています。

また「利晶の杜」では、海外の方に利休の茶の湯や与謝野晶子の文学の世界を理解していただくために、タブレットを貸し出して多言語でご案内をしたり、Wi-Fi で情報が取れるといった情報整備にも取り組んでいます。

堺市には、市民の観光ボランティアさんがた

資料７：堺市の主な取組みについて

くさんいらっしゃって、各スポットに、必ず常駐してくださっています。ボランティアさんも最近は外国語の勉強をして、中国語や韓国語、英語でのご案内に自主的に取り組んでくださっています。

また堺市だけではなく、関西空港を中心に周辺市町の皆さんがもっと元気になっていきたいということで、「泉州観光プロモーション推進協議会」（資料８）を、平成24年９月１日に立ち上げ、設立以来、堺市の竹山市長が会長を務めております。

この協議会は、関西空港さんに非常に大きな支援をいただいていますが、泉州地域の９市４町が連携することで各市町の地域資源や特性を活かした多彩な観光魅力を発信していきたいと考えています。関西空港に近いというメリットを活かして、泉州地域をもっと巡っていただけるように取り組んでいます。

宮本先生のご講演であった調査結果で、85％の外国人観光客が「泉州」をご存じないということでした。「泉州」という言葉は、関西以外では日本人でもご存じない方がいらっしゃいます。また、中国には「泉州市」という同じ漢字を書く都市があり、アジアの方はそちらを思い浮かべる方が多いのですが、これからはもっと「泉州」という地域をブランド化していこうと頑張っているところです。

具体的に泉州観光プロモーション推進協議会で何を行っているか少しご紹介したいと思います。

協議会ができて約３年になります。まずは「泉州を売りだそう」ということでプロモーションを仕掛けてきました。海外でのプロモーションや、毎年海外のメディアやパワーブロガーの方をお呼びするファムトリップ[2]も行っています。

平成26年度には９市４町の13自治体の首長、そして新関西国際空港株式会社の福島会長などが揃って台湾へトッププロモーションに行きました。関西空港さんにご協力いただき、外国人観光客に泉州のだんじりをご紹介するPRなども実施しています。

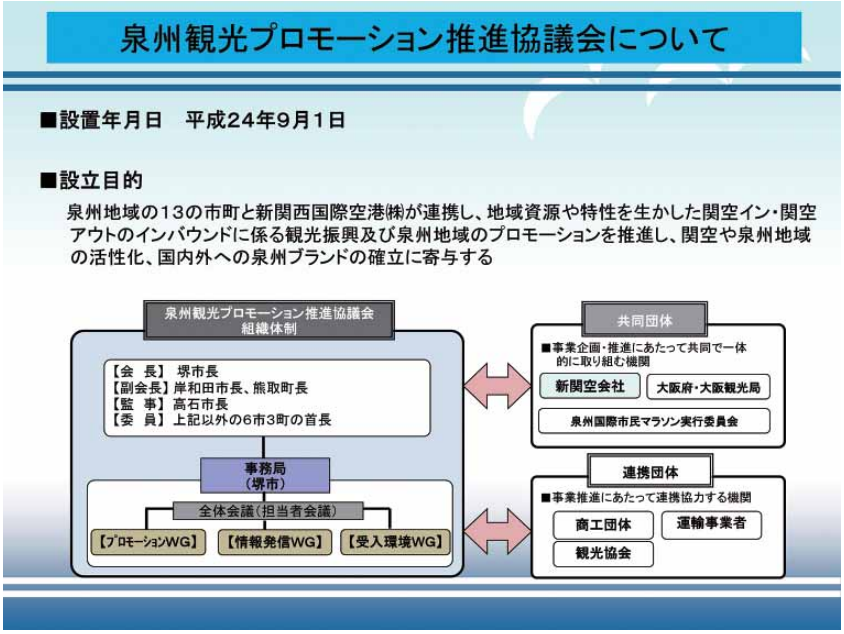
情報発信も非常に大切ですから、ホームページやガイドブック等でも泉州を紹介しています。

ホームページやガイドブックは、当然ですが日本語のほか、英語、中国語の簡体字･繁体字、ハングルといった５ヶ国の言語で展開しています。

それらの公式ガイドブックは、関西空港のエアロプラザに置いておりますので、是非、お帰りの際に手に取って見ていただければと思います。

さらに、外国人観光客の方に泉州にお越しいただきやすくする、受け入れ環境の整備も非常に重要です。南海電鉄さんにもご協力をいただきまして、昨年11月から大阪観光局が発行する大阪周遊パス「南海関空版」に、泉州周遊クーポンを組み込んでいただいております。（資料９）

泉州地域内の割引観光施設等をまとめた「泉州周遊クーポン付冊子」により、泉州地域の魅力を広く発信し、国内外からの観光誘客を促進するとともに、泉州地域を訪れた観光客の周遊



資料８：泉州観光プロモーション推進協議会について

２　「ファムトリップ」
観光地などの誘客促進のため、旅行関係事業者を対象に現地視察をしてもらうツアー

ツールとして滞在型観光を促進するためのものです。

また、関西空港のエアロプラザには、「大阪泉州まるわかり屋」というコーナーを設け、パネルで泉州を紹介したり、泉州各市町の特産物を販売しています。（資料９）

資料９：泉州観光プロモーション推進協議会のこれまでの主な取組について

さらに大阪府立大学をはじめ、泉州地域の各大学に留学されている東アジアを中心とした留学生の方に「泉州観光PRサポーター」に就任していただいております。彼らには観光PRサポーターとして、例えばツイッターやブログで泉州の面白いところを紹介していただいたり、さまざまなイベントで通訳としてご活躍いただいています。

これ（資料９　右下の写真）は就任式で竹山市長と一緒に撮った写真です。サポーターももっと増やしていって、泉州ファンを拡大していきたいと思っています。

「泉州」といいましても、どのように周ればいいのかわからないというのが実態だと思います。宮本先生が先程仰っていた、だんじりの開催日をコンパクトにまとめるというのも、非常におもしろいアイデアだと思います。所要時間別のモデルコースも必要でしょうし、目的別のコースもいります。今は体験旅行が非常に盛んです。例えば田尻町で漁港体験をする、堺で茶の湯体験をするなど、どこでどのような体験ができるか、体験ばかりを集めたパンフレットを作るなどテーマ別の情報発信などにも取り組んでいます。このような活動を通して、泉州をどんどん売り込んでいきたいと考えています。

■宮本

どうもありがとうございました。堺市も、訪日外国人が堺市のみならず、泉州地域にも来てもらえるような取り組みをされていることがよくわかりました。

実は、我々日本人があまり気づいていない日本の魅力は、外国人にとってはいっぱいあるそうです。

竹中平蔵さん（慶應義塾大学　総合政策学部教授）は私の高校の後輩でして、竹中さんが熊野古道の世界遺産登録10周年ということで、和歌山県新宮市で講演をされたあとに会ったんですが、「宮本さん、我々の高校のとき、熊野古道なんか知らなかったよね」と言うんです。あんなにも素晴らしいものがあるってことを、和歌山の市民はほとんど知らなかった。熊野古道が世界遺産に登録されてから「えっ、こんなにも素晴らしいものが自分の郷里にあったの?!」と気付いたわけです。

自分たちの郷里には、こんなにも素晴らしいものがあるということを認識しないことには、外国人に対してアピールしていけないと思います。

面白い例を挙げますと、東京に中国から団体ツアー客が来まして、東京･秋葉原へ行ったり、皇居や富士山を見に行ったりして、最後の１泊には民間の家庭に泊まる「民宿」をしていただいた。そして終わってから、何が一番印象に残ったかのアンケートを取ったんです。秋葉原です

か、皇居ですか、富士山ですか、いろんなものをアンケートに書いてくださいと。一番多かったのは最後の「民宿」で、日本の家庭はゴミの分別をやっている。これが最もインパクトがあったというんです。

そんなの、私たちには当たり前なんですね。そういうことが外国人にとって「なんという素晴らしいことなんだ」と非常に深い印象を与えたわけです。ですから、そういうものは気付いていないだけでいくらでもあるわけですね。

もう一つ例を挙げますと、先年、信州の妻籠（つまご）へ行きました時に山道を登っていくと道の両側に旧家があって、その前に小さな川、というより水が流れている水路のようなものがあるわけです。昔はそこで洗濯をしたり、野菜を洗ったりしていたんですけれども、今はそこに柵をこしらえてお魚を飼ったりしています。そこへ中国の団体の方が順番に座って、十数人並んで写真を撮っているんです。山の水ですから非常にきれいですが、溝みたいなところですよ。「何をしているんですか」と尋ねたら、「こんなきれいな水は中国で見たことない」というんです。だからこの水の横で写真を撮りたいと、ずっと並んで十数人が座って記念写真を撮っているわけです。

これも、我々にとっては、山へ行ってきれいな小川が流れていることは当たり前なんですが、そういう素晴らしいものが日本にある。我々がもっと日本の良さに気がついて外国人にアピールしていくことによって、日本のファンを増やし、また日本に来ていただくということが大事だろうなと思います。ですから泉州にも、まだまだ素晴らしいものがいっぱいあると思いますので、アピールをしていかなければならないと思います。

続きまして、先程お話しました関西空港を利用した訪日外国人の、大阪府での経済効果が約4,300億円、近畿全体では約6,300億円という結果ですけれども、この関西空港のもっていたインパクトや経済効果についてどう感じておられるか。またこれから、どういう方向に進んでいけば外国人の訪日客がもっと増やせるかということを、石川さんよりお聞かせいただきたいと思います。

訪日客をもっと増やすためにできること

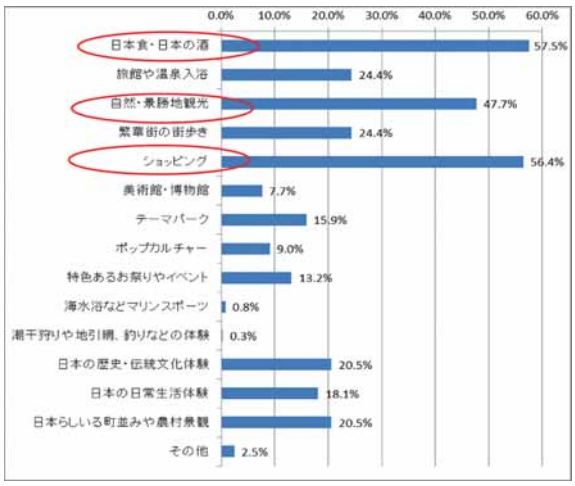
■石川

まず、6,300億円という数字を拝見して、「すごい数字だな」というのが率直な感想です。

関西空港をオープンして21年過ぎましたが、ほんの数年前までは大変厳しいことを言われ続けたわけです。それがインバウンドのおかげで地域に6,300億円の経済効果が出るなんて、私も長く空港に勤めていますが、こんな日が来るとは思いもよりませんでした。

宮本先生のご講演であった実態調査の結果ですが、いろいろアンケートを取っていただいた中で、主な目的が「観光地めぐり 73%」となっていました。

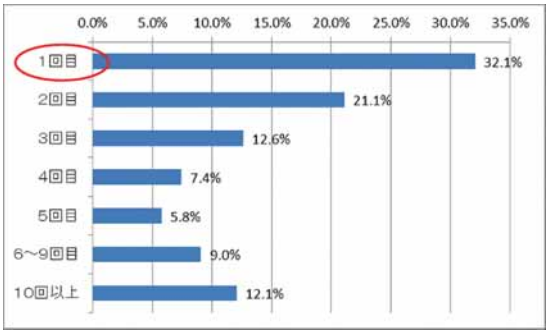
一方で関西の魅力（資料10）は多岐にわたっておりまして、1、2、3位は食やショッピング、自然・景勝地で50%程度の数字が並んでいるのですが、よく見ますと20%ぐらいの数字でいろんなものが並んでおりました。日本の歴史、伝統文化、お祭、イベント、日常生活、日本らしい街並み、農村、景観、このあたりが20%前後で、テーマパークが約16%ですから、関西に



資料10：泉州地域における訪日外国人の動向等
実態調査　～関西の魅力～
（基調講演資料より）

おいて実はUSJよりも日本のお祭、イベント、日常生活に魅力を感じているんだなと思いました。

また、初めてきた方が30%ぐらいですけど、逆をいえばリピーターの方が70%でございます。そして5回以上きている人を足すと30%近くということで、多くのリピーターの方々が関西に来られて、関西空港をご利用いただいているというのがわかりました。（資料11）



資料11：泉州地域における訪日外国人の動向等
実態調査　～来日回数～
（基調講演資料より）

では、泉州という地が何をめざすんだろうということです。なかなか難しいと思うんですけれども、単純に京都や大阪のミナミをめざしてもどうにもならない話だと思います。

やはり「関西空港から一番近い」、これが最大の武器だと思います。先程申し上げた「関西の魅力」で20%前後であったところ、日常生活、日本らしい景観、だんじりをはじめとするお祭、文化体験、あるいは農業、歴史の体験もいいのかもしれません。これをアピールできれば、インバウンドを増やしていく中では、非常に魅力のある地域になれるのではないか、魅力のあるアピールができるのではないかとデータを見ながら思ったところでございます。

■宮本

どうもありがとうございました。泉州地域の活性化に、是非、関西空港さんも引き続きご尽力いただければと思います。

続きまして、南海の阪田さんにお話を伺いたいと思います。ただいま石川さんからもお話がございましたように、関西空港におけるインバウンドの経済波及効果に加えまして、泉州地域の9市4町でのインバウンドの実態調査を行いました。泉州地域の認知度が低いということですけれども、大阪府には多数の人が観光地巡りやショッピングなどに行かれております。この結果を踏まえまして、こうしたらもっと発展するよ、もっとお客さんが喜んでくれるよ、たくさん来てくれるよという、そういう観光戦略などについてお考えがあればお話いただきたいと思います。

海外からのニーズをつかみとる

■阪田

今回の調査で興味深いのは、国別・エリア別でさまざまな行動パターンがあるということです。

我々も定期的に、鉄道を利用される方を対象に同じようなアンケート調査をやっております。それによると鉄道を利用される外国人は、韓国の方が最も多いという結果になっております。また「なんばシティ」と「なんばパークス」で免税取り扱いを行っておりますが、その取り扱い額も韓国が圧倒的に多いです。先程の調査結果と少し違った結果が出ているので、おそらくこういった調査をいろんな切り口で分析をすれば、よくわかっていない関西空港インバウンドの実態が明らかになるのでは、と思いました。

泉州には観光資源がたくさんあり、当社はそれぞれ同じように宣伝をしてきたつもりですが、視点を変えると日本人向けの売り方をしていたのかなというのが反省点です。

これまで高野山、住吉大社、みさき公園と売ってきて、今年は「真田丸」の関係で九度山、あるいは和歌山・加太さかな線をPRしておりますが、これがヒットする対象は日本人じゃないかなと思います。

同じ神社でも、外国人が興味をもつ部分は違うだろうなと思っております。伏見稲荷へは「鳥居がとてもいい」ということで海外の方が非常にたくさんいらっしゃっていますし、太宰府天

満宮にいきますと、たくさんの中国の方がおられます。住吉大社にはもっと海外の方がいらっしゃっていいと思うんですけれども、現状に鑑みれば外国人が興味をもつようなプロモーションが出来てないんじゃないかなというのが我々の反省でございます。

各自治体あるいはエリアの売り込みもそうだと思いますが、海外の方が興味を持つような売り方、しかも海外といっても、中国の方にはどう売る、韓国の方にはどう売るのか、変えて当然じゃないかなと思っております。

先程、先生も仰いましたが、泉州にはいろんなものがあるけれども、一か所にまとまってはいません。当社グループには南海バスという会社があり、電車は南北に走っておりますが、それを東西軸につなぐ役割を担っております。同じく阪堺のチンチン電車が堺市内と大阪市内を結んでおります。これらをうまく使って、泉州を含めたいろんなところに海外からの旅行者が立ち寄っていただけるよう、プロモーションをしていかなければなりません。これまで点で勝負していたのを、線あるいは面で売り込んでいきたいと考えております。

■宮本

どうもありがとうございました。やはり外国人向けのプロモーションが大事であることと、また国によっても若干違うだろう、だから国民性にあわせた宣伝広告もやっていかないといけないというお話をしていただきました。

それでは狭間副市長には、経済波及効果の分析や実態調査の結果を踏まえまして、泉州地域の９市４町で水平連携していく中で、堺市としてのこれからの方向性、観光戦略についてお聞かせいただきたいと思います。

堺・泉州のこれからの観光戦略

■狭間

今、お二人からもお話がありましたけれども、訪日外国人による関西空港の経済効果は相当大きい数字が出ています。しかし、それが泉州地域にどれだけ落ちているかというと、まだまだ

ですので、もっと私たちも努力していかなければなりません。

ではどうすれば堺や泉州に外国人旅行者の方々が来て下さるか。先程ご紹介したように、現在もさまざまな情報発信をしていますが、もっと利用者目線に立ってターゲットを先鋭化した戦略も取っていかなければならないと考えています。

堺は歴史、文化、そしてものづくりといったことを強みとして、プロモーションに力を入れています。

これからはMICE[3]も重要になります。国際会議では、アフターコンベンションといって、いろんな周辺メニューが必要です。大阪で行われている国際会議では、アフターコンベンションとして買い物やUSJに行かれる方が多いのですが、ユニークベニュー[4]のひとつとして、堺に訪れていただくことも可能ではないかと考えています。百舌鳥・古市古墳群を訪れる、あるいは「利晶の杜」で茶の湯体験をする、堺の刃物づくりの現場を見ていただくなど、歴史・伝統に関心のある外国人の方を惹きつける要素はそろっています。実際に国際会議の主催者が下見にいらっしゃることも少しずつ増えています。

関西空港ではアジアのお客様が圧倒的多数ですが、最近は欧米メディアの方が取材で堺に来られることも増えてきました。先日もイギリスの『ナショナルジオグラフィックトラベラー』の記者が来られました。欧米の方は歴史・文化

3 「MICE（マイス）」
企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称

4 「ユニークベニュー」
歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のこと

に非常に興味がおありで、茶の湯のお点前体験でもひとつひとつの所作に「これはどういう意味があるのか？」「なぜ、こういうことをするのか？」と質問攻めでした。自国の方に旅行先として選択してもらえるような魅力を伝えるには、相当詳しい説明が必要とのことでした。

先般、大阪観光局の専務理事とお話ししました時に、大阪で人気の観光名所である大阪城が、欧米のネット上で「がっかりした」という書き込みが多くて残念だと仰っていました。なぜかと調べてみると「たしかに立派である」「素晴らしい」、ただ大阪城はどういう歴史を背負っているのかといった歴史上の物語が全然わからないまま帰ってしまったという人が多いということでした。

やはり国別、あるいは地域別に旅行のニーズが違いますので、そのあたりはきめ細かく対応していかなければなりません。

百舌鳥・古市古墳群が、世界文化遺産に登録されましても、「大きな森のような緑が広がっている」で終わってしまってはいけません。古墳群にどういう歴史や意義があるのか。日本の古代の国家形成過程を物語る重要な遺産であり、人類の歴史や社会を考える上でも極めて高い意義をもつ歴史遺産であるということを理解していただけるような紹介をしていかなければならないと考えているところです。

泉州全体での誘客を考えた場合、それぞれのまちが持つ強みを活かしていけると思っています。国によって少しずつニーズは違いますが、「日本食あるいは日本酒が楽しみである」「買い物がしたい」「自然・景勝地に行きたい」「温泉に入りたい」「ユニークな体験をしたい」など、さまざまなニーズがあります。堺には温泉はありませんが、泉州でみると奥水間温泉や犬鳴山温泉があります。体験も、堺では茶の湯や打刃物の体験をしていただけますし、泉大津で織物の体験、田尻町で漁業体験ができるというように、どんどん広がっていきます。一つの自治体ではできないさまざまなメニューを、ニーズに合わせて組み合わせできることが泉州地域が協力し合うことで生まれる強みです。

また、ファーストトリップとリピーターではニーズが変わります。最初に関西に来られた方は、やはり大阪市内に行き道頓堀で買い物をし、USJに行きたいというのは当然だと思います。

しかし2回目、3回目の来訪となると、何か他人とは違う体験がしたい、皆が行ってないところに行きたいと思うものです。旅行は成熟していきますから、リピーターの人に「大阪でも定番の観光とは違う、さまざまな魅力がある」ということを、この泉州地域で紹介していきたいと思っています。

例えば果物狩りは中国の方にとても人気があります。堺市でも南区ではみかん狩りやイチゴ狩りができます。その場で獲ってすぐに食べられるという果物狩りは、私たちには珍しくないですが、外国の方にすれば非常に新鮮な体験です。農薬も少なく、安全で、その場で食べられるという楽しみ。他にも、自分たちは普通だと思っていることでも、外国の方には新鮮な楽しみとなるものがあるだろうと思います。

そういうことを組み合わせながら、もっともっと人を呼び込んでいきたいと考えているところです。

■宮本

どうもありがとうございました。いろんな取り組みを考えて、外国人の観光客を取り込みたいということでございました。

では、これが最後になるのですが、本日のシンポジウムの感想や言い残したことがありましたら是非お願いしたいと思います。

まず、石川さんにはその前に、この週末から春節で中国系の方が関西空港にたくさん来られると思います。それに対する期待、そのための戦略といいますか施策も含めてまとめていただければと思います。

インバウンドはまだ伸びるのか

■石川

まず春節のお客様は、昨年と比べて同期間で3割増しとなっております。日本人を含めた平均ですから、おそらく外国人の方は5割増しぐらいになるでしょうね。

今年の特徴は、中国の方だけではなく韓国の方も激増しています。おそらく昨年の11月ぐらいから急に増え始めたんですが、前年の倍ぐらい来ているんじゃないかというイメージです。

ですから、中国の方も増えていらっしゃるんですが、韓国の方が大きく増えている。韓国線は、昨年秋以降から大幅な増便になっている状況です。ですから、いつもとは少し違う雰囲気の春節になるかもしれませんね。

■宮本

韓国が増えているというのは、円安なども大きく影響しているということですか。

■石川

そうですね。円安もありますが、ただ円安はその前からあったので。11月頃からグッと増えてきて、釜山線などのLCCが大きく増便したということも要因としてあったと思いますし、何か政治的に少し和やかな雰囲気も出てきたのかもしれません。

そんなところでありますので、たくさんの方に来ていただいて期待をしている一方で、スムーズに空港を使っていただけるのか、ドキドキしているところでございます。

こういう形でシンポジウムを開催し、この関西空港でお話をする機会を作っていただいて、本当にありがたいなと思っております。こうやってインバウンドというテーマでイベントをすると、最近はたくさんの人に集まっていただいて、非常に各方面でも興味を持っていただき、裾野がどんどん広がっているんだなと実感して嬉しいかぎりです。

ひとつ、宮本先生の発表に入ってなかったんですが、事前にいただいた実態調査結果の資料の中に、訪日前に観光情報をどこで入手しましたかというアンケートがありました。それをみますと、個人のブログ（35%）、知人から直接聞いた（17%）、旅行の口コミサイト（14%）あるいはSNS（8%）というものを足すと74%という数字でした。

ですからメディアだけじゃなくて、今やもう皆さんもイメージされている通り、個人と個人との繋がり。ブログであるとか旅行の口コミサイトであるとか、そういう情報から行く先を選んだり、日本での行動を決めていたりするんだなとわかりました。

そういう中で泉州はメジャーなメディアが取り上げて、あるいは大きな旅行会社が取り上げてくれるディスティネーションではおそらくないでしょう。また、あまりドッと来られても受

け手に対応できる環境がないということもありますので、情報が少しずつ出ていくのがいいと思っています。

そのためにはまず外国からきた人が、スマホを向けて写真を撮りたくなるもの、スマホを向けて動画を撮ってくれるようなものを増やさないといけないなと。例えば居酒屋さんでも、いろんなメニューがありますけど、スマホを向けて喜んで撮ってもらわないとリピーターになりません。ですが、自分の生活圏の中に外国の方が入ってくるわけですから、スマホで撮られることが嫌なら、あらかじめ意思表示をした方がいいのかもしれません。

また、古墳の話。堺の百舌鳥古墳群や古市古墳群がありますが、岬町にも立派な淡輪（たんのわ）古墳群がございます。堺の古墳に負けないぐらい巨大な古墳が２つ、ドンとあって、その周りに陪塚があって、田舎の景色と相まって素晴らしいところです。

淡輪古墳群のすぐ横で「リモート農園」をしてらっしゃる方がいて、これは何かというと、パソコンやスマホで農園を経営するんです。「種を植えてください」「草を抜いてください」「水をやってください」と、パソコンや携帯から指示を出すんです。すると指図するたびに200円とか300円とかお金を払わなきゃいけないけど、やってくれる。

作業は、少し障がいのある方にお願いしていて、その方に現金が入るという素晴らしい仕組みです。これによって、台湾の方などが日本の畑を耕すことができるわけですよ。韓国の人が日本で畑を耕して、できた頃にやってきて、それを収穫して地域の人と触れあいをしようということを少しずつ目論んでいます。

私も昨日、畑を見に行って、岬町の人と一緒に「これは面白いよね」と言ってきたんですけど、そういう日本人と一緒に何かができるようなことを、この泉州のまちで、田舎でもできるんじゃないかなと思っております。

■宮本

どうもありがとうございました。

最後にもうひとつだけお伺いしたいのですが、これからLCCはまだまだ増えますか？

■石川

まだ増えると思いますね。

現在、便数としては30％を超えるレベルまできました。ただこれがパッと50％まで一気にいくかというと、それはわからないですけど、フルサービスも含めて全体が増えていく中では、まだ増えるんじゃないかなと思います。

中国線のLCCは春秋航空ぐらいしか飛んでいませんので、中国という大きなマーケットに対してどうなっていくかは、これから注目すべきところかなと思います。

■宮本

ありがとうございました。

それでは阪田さんにお伺いしたいんですけれども、本日のシンポジウムの感想、関西空港への期待、そのようなものがありましたらお話をしていただきたいと思います。

■阪田

同業他社の方と話をしますと「南海さん、空港線が増えてうらやましいですね」と言われるんですけど、実際は嬉しい反面、課題もいっぱいあるなと思っています。

私どもの独自の調査では、空港線利用者の75％程度がやはり難波方面へ来られています。ところが、なぜ難波に来られるかと聞きますと、半分以上の方は、ホテルがあるから、あるいはホテルの途中だからとおっしゃいます。買い物は道頓堀や心斎橋も含めて別のところでなさいます。実際に、難波の周辺でお買い物をされ、観光されているかを伺うと、そうでない方が結構いらっしゃるんです。

これは我々も非常にショックでした。ミナミは最も関西らしい街だと思っているんですけれども、それをほとんど知らずに通過される方が多いんです。

それではいけないということで、エリアマ

ネージメントをやりまして、商店街あるいは地元のいろんな方と一緒に、明るい犯罪のない難波をつくろうとさまざまな活動を行っております。また、難波駅の隣接地に新たなビルを建設しております。商業施設やオフィスが入るビルですが、それだけではダメだということで、ツーリズムや文化、あるいは医療、そういったいろんなニーズに応えられるようなビルを考えています。

ミナミの価値をもっともっと高めて、ずっと走り続けないと、いつか阿倍野に逆転されるという危機感を持っております。

一方、当社は地元にお世話になって130年になりますが、ほとんど地元に降りていただけていない。これは我々の責任でもあると思っております。

情報発信は当社だけでできるわけではありませんが、やはり地元との協働がまだまだ足りないんだなと思っております。これがなかなか「言うは易し」で、実際やってみますとそれぞれの地域のいろんな意見があって、調整が難しいです。

先ほど先生が泉州の各エリアが一定期間まとまって「だんじり祭り」をしたらどうだと、仰いました。しかし、当然ながら土・日に入らない地域が出てくるんですね。すると「それでは困る」という話になってまとまりません。しかし、泉州一丸となってそれぞれのエリアが役割分担をきちっと踏まえた上で、全員がウィン・ウィンになる関係をつくらないと、なかなか京都やほかのエリアに勝てないんじゃないかなと思っております。

我々も電車のほかにバスやチンチン電車がありますので、いろんなところに降りていただきたい。飛行機に乗るまで３時間ぐらい待つので、時間を費やすのに困っているという方が沢山いらっしゃいます。空港周辺の地元で「本物の日本」を感じていただけるような工夫をすれば、もっともっと泉州は発展するんじゃないかなと期待しております。

■宮本

どうもありがとうございました。

それでは狭間副市長、本日のシンポジウムの感想、言い残したということがありましたらお願いいたします。

■狭間

繰り返しになりますけれども、堺あるいは泉州でインバウンド誘致として大事なことは、認知度をどう向上するかということ、そして魅力的な周遊ルートをつくり上げることだと思います。

「泉州」という言葉はまだまだ認知されていないという話をしましたが、実は「関西」という言葉も当初はそうでした。たしか関西空港のネーミングを考えるときに、「KANSAI」では誰もわからない、しかし「KINKI」というと英語のスラングであまりいい意味ではない等と、ずいぶん議論があったことを覚えています。

ところが今や、ニューヨークタイムズの「今年行くべき世界の52選」に、「関西」が入りました。当初は知名度のなかった「関西」という地名が定着し、世界でいくべき52選に選ばれたわけですから、泉州もいつかは世界で行くべき100選ぐらいに選ばれるかもしれない。それぐらいの意気込みをもって、ブランド向上に努めていきたいと思っています。

それから今、南海電鉄の阪田さんが嬉しいことを仰って下さいました。地元ともっと連携していく、地元に人が降りていただくようにしたいと言っていただきました。周遊促進に公共交通は必須です。「泉州周遊クーポン」等、今もご協力いただいていますが、例えば南海本線、高野線、あるいは阪堺線、バスも含めた泉州乗り放題切符というような、お客様にとって使いやすい企画を一緒に考えさせていただけるとありがたいと思います。

もう少し広域に視点を移すと、百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産に登録されましたら、和歌山県の世界文化遺産である「紀伊山地の霊場と参詣道」とあわせて、大阪・和歌山の２大世界遺産を巡る周遊メニューやパスができると、

非常に魅力的になります。

百舌鳥・古市古墳群は堺市、羽曳野市、藤井寺市と大阪府を東西に移動しますので、非常に巡り方が難しいのです。体力のある方は自転車で回っていただくのもいいと思いますが、自転車を乗り捨てできる仕組みを作らなければいけません。非常に広域な文化遺産ですので、鉄道やバスの事業者さんとも協議をして、周遊の方法を考えていきたいと思います。

これからも、関西空港さんや南海電鉄さんと力をあわせて、一時のブームに終わらない、何度も来たい、来る度に新しい発見があるといった魅力的なエリアにしていきたい。また、大阪ならではの人情のあつい地域ですから、地元の人との楽しい交流を積み重ねていけるエリアだといった情報も世界に発信していきたいと思っています。

■宮本

どうもありがとうございました。

まだまだ皆さん方のご意見、お考えをお伺いしたいのですけれども、そろそろ閉会のお時間が迫ってまいりました。

本日のシンポジウムを通じまして、近畿地域では年間約6,300億円という大きな経済効果を、関西空港が地元にもたらしている。つまり関西、日本へのゲートウェイとして大きな役割を果たしてくれているということが、まずわかりました。

しかし少し残念なことに、これからの課題にもなると思いますけれども、関西空港の地元である泉州地域には、プラスの効果が少ない。もっと泉州に、関西空港を通じて来られた訪日外国人の人たちのプラスの効果が広がってくれるよう、我々官民あわせて工夫をしていく必要があると思います。

本日、パネリストとしてご出席いただきました新関西国際空港株式会社の石川さん、また南海電気鉄道株式会社の阪田さん、そして堺市副市長の狭間さんのお話にもございましたように、地元の住民、それから企業、自治体も一緒に力をあわせ、関西空港を通して来日される訪日外国人の人たちが、泉州地域、関西地域へもたらすプラスの効果をさらに大きく、そして広めていくことに努力していただいているということに、非常に意を強くいたしました。関西地域はまだまだ発展すると私は思っております。

最後に、シンポジウムにご出席いただきました皆様方、そしてこのシンポジウムの開催にご尽力いただきました方々に心よりお礼を申し上げまして、本日の拙い司会を終わらせていただきたいと思います。本日は本当に、ありがとうございました。